

本会議における

議案質疑

【質疑をした会派名】

今定例会では延べ24名の議員が質疑を行いました。

【インターネット録画放送】

川越市議会ホームページで
ご覧になれます。

【今定例会の会議録】

川越市議会ホームページ、
または図書館等で
11月下旬頃から閲覧できます。

会議録の閲覧等

【閲覧場所】

図書館／市民センター／議会事
務局／情報公開窓口（東庁舎）

議案第58号

平成28年度一般会計歳入歳出決算認定

【やまぶき会】【公明党】【政晴会】

【日本共産党】

問他会計への繰出金増加の要因は。

答国等の示す基準による繰出金のほか、国民健康

保険事業特別会計に対し、財源不足を補てんする繰出金を、前年度と比較し約7億1千万円増となる約22億4千万円繰り出したためである。

問扶助費増加の要因は。

答臨時福祉給付金給付事業、保育所等に対する施

設型給付費、介護給付・訓練等給付の増加などによるものである。

問市長の感想は。

答「だれもが住み続けたいまち川越」の実現に向け、新たに掲げた事業については概ね計画通りに着手できた。また、川越駅西口市有地利活用等、

長年の懸案であった事業についても概ね推進できたと受け止めている。

……市平均の約2倍だが、市の考えは。
答繰越金は、歳入構成比で他市と比べ高い水準にあると認識している。特に実質収支額の推移に留意する必要があると考えている。

問平成28年度は、自主財源の確保策として徴収困難事案への対応強化などの実施や、財政運営の安定性・継続性の確保策として積立基金の総合的な見直しなどに取り組んだ。
問市長は、平成28年度決算を受けて、どのような点を重視しながら今後の市政や来年度予算に反映させるのか伺いたい。

答行財政改革に取り組みながら、限られた財源を効果的に配分し、総合計画の将来都市像の実現に向け、さまざまな施策を着実に推進していく。特に、東京オリンピックの開催や市制施行100周年という機会も生かしながら、本市のさらなる発展につなげていきたい。

問普通会計における繰越金の構成比5%は、中核

市平均の約2倍だが、市の考えは。
答繰越金は、歳入構成比で他市と比べ高い水準にあると認識している。特に実質収支額の推移に留意する必要があると考えている。

問実質収支比率も平成22年度以降一度も適正範囲とされる3〜5%に収まっていないが市の考えは。
答実質収支比率は、近年の本市の比率や中核市平均の状況を勘案すると高い水準にあるといえ、その動向に配慮する必要があると考えている。

問会計年度途中の不用額等を見越した基金への積み立てについて市の考えは。
答市税等の動向や不用額の把握に努め、基金への積み立てを通じ、財源の確保を図っていきたい。

問市債が前年度より約21億3千万円増え106億2千万円となった理由は。
答主な理由は、新斎場建設に係る市債が前年度に

比べ31億2900万円増加したことなどによるものである。
問公債費は約4億円増の92億円。今後の大規模事業への市債活用への考えは。
答限られた財源で公共施設の整備・更新等を実施する必要がありことから、市債の活用も重要になるが、過度の発行は公債費の増加につながることから、市債残高等を勘案し、

計画的に活用したい。
問厳しい財政の中、大規模事業を見直す考えは。
答大規模事業に限らず市の事業は、総合計画に基づき総合的かつ計画的に進めている。今後も住民の皆さまの要望、財政状況なども考慮しながら計画的に進めていきたい。
* 財政用語の説明は、9ページの「豆知識」をご覧ください。

議案第59号
平成28年度国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定
【日本共産党】

問加入者の所得階層別の構成割合を伺う。
答所得200万円以下の世帯が75・5%、200万円を超え500万円以下の世帯が13・9%、500万円を超える世帯が3・2%である。
問都道府県化により保険税が高くなると報道されているが、今後市の国保税のあり方を伺う。

答国県による激変緩和措置が行われること、赤字

解消計画の策定が求められていることを踏まえ、適切に対応していく。
問社会保障としての国民皆保険制度を守り運営していくのか、考えを伺う。
答国保の都道府県化後も市町村国保の財政状況は厳しいと考える。国や県を求めるとともに、県の運営方針に基づき、共通認識の下、安定的な運営を図っていく。

……

……

……